

# 佐高信

## 重厚な大作をじっくりと

「大学教授ヒモノ説」を主張している私だが、すべての大学教授がヒモノであるわけではない。中にはピチピチのナマモノもいる。

経営者の中にも、少しはまともな者がいるのと同じだろう。

山室信一さんは、かの「キメラ—満洲国の肖像」(中公新書)を書いた瞳目<sup>どうもく</sup>すべき大学教授。時事通信社の記者から日本銀行副総裁となった藤原作弥<sup>とうや</sup>さんをまじえて「満州」についての座談会をやったことがあるが、温和な風貌に鋭い問題意識をひそめた人だった。

その山室さんが著した、文字通りの大著。読み通せば、必ずや得るところがあるはずなのに、まだ取りかかる時間がもてないでいる。

小熊英二さんには私は会ったことがない。

上野千鶴子さんの書いたものによつて、小熊さんの「単一民族神話の起源」(新曜社)を知り、いろいろなどころで活用させてもらっている。

「五族協和」というスローガンを掲げたために、戦争中は、いわゆるタカ派の方が日本民族は混合民族だと

言っていた。しかし、戦後は、日本民族は単一民族だというのが彼らの論調である。

きわめて評判の悪かった石原慎太郎と私の対談でも、この矛盾から入ったのだが、彼に「知らない」と言われて、ずっこけてしまった。この矛盾を突いていくことは、けっこう有効なのではないか、と私はいまでも思っている。(本誌編集委員)

### 「思想課題としてのアジア」 基軸・連鎖・投企」山室信一



岩波書店/8000円

### 「民主」と「愛国」戦後日本のナ シヨナリズムと公共性」小熊英二



新曜社/6300円